

韓国での実習を終えて

文教育学部芸術表現行動学科 2年

西島 理恵

目的

韓国へは、2004年、韓国ドラマ『冬のソナタ』が火付け役となり巻き起こった韓流ブームをきっかけに興味を持ち始めた。ドラマから始まった韓国への興味はやがて、一国の文化や言語へと広がった。そして、今では領土問題や歴史問題など、様々な問題が山積みである日韓関係に関心を持っている。

韓国へは、以前に何度か訪れたことがあったが、観光が目的であり、一週間程の短期滞在だった。しかし、今回は、滞在期間が三週間と長めである上、今自分が一番興味を持っている国で、様々な国の仲間と共に、言語や文化だけでなく、東アジアを中心とした国際情勢が学べるということで、参加を決めた。

2.成果

2.1 多文化交流実習 I

International Political Economy は、大学でもほとんど学んだことのない未知の分野であった。そのため、ディスカッション以前に、講義内容を理解するだけでも大変苦勞した。しかし、経済のさまざまな考え方を知り、新たな視点が増え、日々世界の見方が変わっていった。また、今回は、国も世代も専攻も異なる仲間との学びであったため、ディスカッションの度に驚きや発見があり自分の世界が大きく広がった。経済について専門的な知識を持っている生徒が少なかったからこそ、日々の生活で、一般市民はどのように世界経済危機の影響を感じ、各国の世界経済危機への対処をどのように捉えているのかについて広く意見交換が出来たのは良かったと思う。また、政治体制が異なる国同士で意見交換が出来たのも今回の大きな収穫である。しかし、各国の生徒数バランスが、日本人が圧倒的に多く、アメリカ人やドイツ人は一人のみという状況であったため、一言の発言の重みに差が出てしまうのは、誤解を生みかねず、問題点だと感じた。

また、この講義は英語で行われたため、自分の英語力についても考えさせられた。生活を始めて、一週間もすると、英語を使うことに慣れ、友人との日常会話には困らない程度の英語を話すことが出来たが、講義やディスカッションの際の学術用語は辞書なしでは理解することができなかった。また、ディスカッションの際に、少し複雑な事柄や気持ちを伝えようと思っても、なかなか自分の気持ちを表現できず、悔しい思いをした。英語を第二言語とするためには、まだまだ努力が必要であることを痛感することができたため、この思いを今後の学習に、つなげていこうと思う。

2.2 多文化交流実習 II

以前から、韓国語に興味を持ち独学で学んでいたため今回はレベルⅡのクラスで、基本的な文法を学ぶこととなった。行きの飛行機の中では、文字は読めるもののほとんど意味はわからず、話すことができるフレーズもドラマや本で覚えた文句のみであった。しかし、三週間の講義を終えた今、韓国語で、現在・過去・未来、そして自分の意思までもを表現できるようになり、大変驚き感動している。今回の講座は、短期集中であったため、ハイペースで授業が進んだ。しかし、放課後や休日に街に出ると街に溢れているのは韓国語である上、周りには丁寧に韓国語を教え、日常の中で韓国語を使う機会を与えてくれるたくさ

んの韓国人友人がいるという、言語を習得するには最高の状況であったため、授業で習ったことをすぐに実践に移し、そしてその成果を体感することができた。

言語習得の喜びをこれほどまでに感じたことは今までなかったと思う。英語は世界の共通語であるという認識が強くあり、習得しなければという強い思いで日々学習しているが、日本にいても実際に使う場面がほとんどない韓国語は、英語に比べ、学習の必要性を感じるものが少なく集中的に取り組むことが出来ずにいた。しかし、三週間の間に、現地の人との会話を韓国語で楽しみたい、目にする韓国語の意味を理解したいという思いが日に日に強くなり、学習意欲が掻き立てられた。そして、授業で新しいことを学ぶ度に、表現できる事柄、理解できる事柄が増え、日常生活も楽しくなっていた。

韓国語は日本語とほとんど文法が変わらないため、文法で躓くことはほとんどなかったが、毎回の授業で出てくる新たな単語を覚えるのに苦労した。しかし、単語を覚えるには、机と向き合うよりも、すぐそばにいる仲間や街で出会う人々と、怖がらずに、韓国語で話してみる、という実践がなよりの勉強になることを実感した。

今回学んだことを、自分のものにし、更に表現の幅を広げるために、これからも韓国語の勉強を続けようと思う。その際、今回共に学んだ仲間や、韓国で出会ったたくさんの友人が支えになってくれることは間違いない。

2.3 ショートビジットで学んだこと

今回は、IPE と韓国語という 2 つの講義を受講した。前述したように、講義からたくさんのことを学んだが、それ以上に、このサマースクールでの出会いや街で感じた文化や人間性から本当に多くのことを学び、それ故にこの三週間がとても充実したものになった。

2.3.1 韓国人の人間性

今回の滞在期間中、一番驚かされたのは、韓国人の人間性である。一言で言えば、親切。そして、日本人よりも人と人との距離がとても近い。滞在中、体調を崩したり、道がわからず困ったり、一人では解決できない問題に何度も直面した。そんな時、韓国の人はいつも、心が温くなるほど親身になって自分を助けてくれた。日本では考えられないほど、最後の最後までまるで自分のことのように手助けしてくれる親切さに、日本人の在り方について考えさせられたほどであった。

料理を当たり前のようにシェアしたり、正面から喧嘩したり、車の前に堂々と歩いて出ていったり、日本ではあまり見られない光景に初めはとても驚いたが、たった三週間の間に、そのような人間味ある行動を心地良く思うようになった。ソウルは東京と同様に、最先端技術や物に溢れる国の中心地であるが、東京都にはない、少しごちゃっとした人間味を感じるの、人と人との心の距離が近いからであろう。今の日本は、必要以上に人と人との間に遠慮や気遣いがあり、それ故に冷たさを感じる国になってしまっている気がする。“他人” との間の分厚い壁を思い切って取り払うことで、人間にとって住みよい世界ができるのかもしれないことに、この滞在を通じて気付かされた。

2.3.2 出会い

今回のサマースクールでは、たくさんのお出会いがあった。

まず、今まで“日本語が話せる外国人”の友人とは大学で出会い、交流もあったが、母語以外の言語で会話する友人は数少なかった。知りあうことはあっても、あくまで「知り合い」止まりで、なかなか「友人」になることはできなかった。しかし、今回のプログラムでは、一緒に授業を受けディスカッションを

したり、放課後や休日に一緒に遊びに行ったりすることで、いつの間にか日本の友人と変わらぬ絆が芽生え、たくさんの「友人」を作ることができた。

また、世界各国の友人はもちろんのこと、新たな日本人の友人と出会うことができたのも大変大きな喜びであった。今回のプログラムでは、自分は最年少に近い年齢であり、周りは年上の方ばかりであった。そのため、学生生活で留学経験をしたことのある人や、就職活動を終えた人など、自分はまだ経験したことのないことを経験している人がたくさんいた。

一年の長期留学について、とても悩んでいた自分は、今回の出会いにより意思を固めることが出来た。今まで、一年という年月の重みや留学先、留学目的など様々なことを考えすぎていたために、一步を踏み出せずにいた。しかし、今回、過去に一度だけでなく二度以上の留学を経験している人や未知の世界へ飛び込んでいった人と出会い、その人の在り方を見ていると、留学の意義を感じることができ、自分も是非留学してみたいと思うようになった。

今回のプログラムでは、自分の想像の範疇を超えて本当に様々な生き方をしている人に出会うことができ、大変刺激を受けた。これからの人生の生き方を変えるような出会いをこのプログラムで経験することが出来たと思う。

3.まとめ

今回のサマースクールがこれほどまで充実し、自分にとって刺激的なものになるとは思っていなかった。まず、経済という新たな分野に足を踏み入れ、今の世界に目をむけることが出来たのは今回の大きな収穫の一つである。帰国後も、ニュースの経済面に目を通したり、為替の値動きを見てみたりと経済という面からも国際関係を見つめることができ、これから世界の見方も変わっていきそうだ。

韓国という自分の大好きな地で、たくさんの仲間と出逢い、たった三週間ではあるが、異なる文化に触れ、海外での生活を経験したことは自分にとってとても大きな財産になった。滞在期間中、一日一日がとても短く、一度も日本に帰りたと思わなかったのは、韓国の文化や人間性をとても心地よいと感じたからであろう。休日に訪れた様々な地で感じた韓国の様々な色も忘れられない。特に、自分の目で統一展望台から北朝鮮を見て、南北分断を目の当たりにした時の衝撃や、独立記念日に訪れた独立記念館で聞いた「万歳」の声は忘れられない。三週間では見られなかった韓国の色を今度は「訪問客」ではなく「一生活者」として滞在し、見てみたい。